

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2791700020		
法人名	株式会社フレンド		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 フレンド天王寺 (2階・ユニバーサル)		
所在地	大阪府大阪市天王寺区味原町15番11号		
自己評価作成日	平成29年5月20日	評価結果市町村受理日	平成29年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2791700020-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2791700020-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年6月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご家族様に訪問していただき易い好立地であり、大阪赤十字病院へも徒歩3分と利便性もあります。当グループホームでは過ごされる方の安心、安全、取り巻く環境を第一に考え、穏やかな生活を送っていただけるように日々支援させていただいております。ご病気により出来ない事や忘れてしまう事が増えても、住み慣れた地域でゆったりとありのままの姿で生活を送ることが出来るように真心をこめてお手伝いします。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームでは「家族のようで家族でない関係」を重視し、尊厳を大切にしながらも他人行儀にならないよう親しみを込めたケアを実践しています。職員は利用者の機能低下を防ぐため、体操や階段を昇り降りしてもらうことで生活リハビリを行い、また日常の散歩や買い物を通じて地域に溶け込めるよう支援しています。排泄においては利用者が常に気持ち良い状態で過ごせるように、利用者には下着や排泄用品の選択にも気を配り、日中は車椅子の利用者も含めトイレでの排泄を支援しています。医療では協力医師の往診以外にも精神科や歯科医師による往診があり、医療を必要とする利用者のために専門医の往診も受けたり、また専門医の受診が必要な際には協力医の紹介状を持参することでスムーズに診察が受けられる様支援しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で、その人がその人らしく暮らす」を理念として掲げ、その人らしい生活を送ることが出来るようご本人様、家族様のご希望を最大限尊重し、現場で活かされるよう取り組んでいる。	法人の理念を掲示して意識できるようにして日々のケアにあたっています。管理者は職員に理念をもとに自ら考え行動するよう伝え、職員は利用者が地域に溶け込めるよう日々の散歩や買い物支援しています。ホーム独自の理念は作成されておらず、理念の共有や振り返りが出来にくいのが現状です。	ホームの方向性を職員間で共有できるように、法人の理念をもとに職員間で検討しホームの理念を作成されてはいいでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催しているゆうあいカフェ、盆踊りへ参加するなど積極的に地域との交流を図っている。	運営推進会議で参加者から情報を得て、盆踊りや地藏盆、認知症カフェ等に参加しています。近隣幼稚園と交流したり、ボランティアによる本の読み聞かせ等ホームのイベントに参加してもらっています。またメイクのボランティアに近隣企業の職員が来訪し、利用者の笑顔に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談にこられた方や家族様への連絡を通じ認知症の理解や支援につなげられるよう発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当法人系列のフレンド筆ヶ崎を共同で開催している。運営推進会議には地域の代表、包括支援センターの代表、児童施設の管理管理者、ご家族、ご入居者様を交え意見交換、現況報告を行っている。	利用者や地域、行政が参加する運営推進会議は2ヶ月毎に法人内の近隣グループホームと合同で行っています。昨年度の課題である家族の参加については、案内状を出したり直接電話する等、参加を呼び掛けています。会議ではホームの現状や研修、疾病予防等の報告がなされ、地域よりボランティアの情報を得たり、行政からは法制度や運営に関するアドバイスを受け運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に訪問させていただき現在の状況など報告をしている。また運営推進会議を通じてイベントの報告など生活の様子も伝えることが出来ている。	市担当者とは、運営推進会議録を郵送し報告する以外にも、法制度や利用者の状況等で毎月連絡を取り連携を図っています。市や区の研修案内については様々ある中から管理者が選んで職員が参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような状況に置かれている利用者様であっても、身体拘束を必要としないケアの方法をスタッフと話し合いケアの実践に努めている。	身体拘束の研修は法人やホーム内で定期的に行っています。不参加の職員は管理者が説明した後資料を配布しています。利用者の状況により玄関やユニット出入口は施錠していますが、外に行きたいような行動が見られた場合は、職員が付き添い散歩等で対応し、閉塞感のない環境づくりに努めています。	

グループホームフレンド天王寺(ユニバーサル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待に関する研修を行い、虐待の防止に努めている。また、新規スタッフには必ず事前研修として虐待に関すること、認知症への理解が出来る研修を行い虐待防止につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の資料を通じ、権利擁護について学んでいる。今後も継続して尊厳ある暮らしの提供が出来るように取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、家族様にはわかり易く契約時に説明を行っている。また、契約後においても柔軟に対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の意見が伺えるよう来所時には必ず挨拶をして、お出迎えをしている。また意見箱の設置、苦情相談窓口を設け、家族様のご希望を伺えるよう取り組んでいる。	ホームでは管理者が家族の来訪時に、必ず声をかけ利用者の現状報告をするとともに、意見や希望を聞くよう努めています。また毎月の請求書にアンケートはがきを同封することで、家族からの自由な意見を聞ける機会として活用しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行い現場からの意見を聴く機会を設け、良案を実践で入るよう取り組んでいる。またスタッフとの食事会も定期的に設けている。	管理者は毎月の職員会議の中で時間を設けたり、日々のケアにあたりながら職員間で意見交換できる場を設けています。イベントの提案を受け実施したり、備品の購入等の要望には速やかに対応するよう努めています。また新入職員には、毎日の様に声をかけ話をし相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的なミーティングや、話し易い、聞き易い環境を作れるように努めている。新人スタッフが早く打ち解けられるようにイベントなども積極的に開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や指導を通じスタッフが学ぶ機会を作っている。また、利用者様のご病気などその時、必要に応じ資料を配布しスタッフは学んでいる。		

グループホームフレンド天王寺(ユニバーサル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学会を開くなど同一事業者との交流を図るよう取り組んでいる。定期的に他施設見学をさせていただきサービスの質を向上させるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談を必ず行い、要望を伺っている。入所後もカンファレンスなどを通じて安心、安全な生活を提供できるようにスタッフ全員で取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に家族様の今後の不安や困っていることを親身に聴いている。また、入所後もまめに連絡を取り、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様のご要望を伺い、そのときのADLに鑑みて必要なサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活していく中、皆様の尊厳を大切に、出来ることをしていただきながら支えあい生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様、ご本人様との話し合いの場を大切に、時に家族様にご助力いただきながら支援させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との手紙のやり取りや、電話連絡、面会の制限は設けず可能な限り受け入れしている。	家族の訪問以外にも近隣に住んでいた友人や教会の友人等、頻回な来訪があります。お茶などを出したり、利用者と共に近隣の喫茶店に出かけることもあります。利用者は家族と墓参りや馴染みの病院受診に出かけています。また職員が付き添って馴染みの店に洋服等の買い物に出かけたり、友人からの手紙の読み上げをするなど、利用者とい前の生活を結ぶ支援をしています。	

グループホームフレンド天王寺(ユニバーサル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員参加のイベントや話題の共有を通じて一人になる状況を作らないように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も困ったことなど相談できるよう家族様との関係作りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在の状況を踏まえご本人様の意思を汲み取れるよう日々関わっている。	入居前には職員が自宅や病院等を訪問し、利用者や家族、ケースワーカー等に現状を聞きとり思いを把握できるようにしています。職員は日々の会話や利用者の様子から得た情報を記録に残し、カンファレンス等で検討し利用者の立場に立って思いの理解に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、趣味、嗜好を把握できるようご本人様、家族様を交え話し合いをしている。家族様へはどのように生活してほしいのかとご希望も必ず伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりあいの中で、どのような心身状況にあるかを常に観察し、都度必要な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前のご本人様、家族様、関係事業所との話し合いは必ず行っており、入所後も月に1度カンファレンスを行い現在の状況を踏まえたご本人様、家族様のご希望を反映した計画作成を心がけている。	介護計画は3か月ごとにモニタリングを行い、個々の長期目標の期間に応じてサービス担当者会議を開き再アセスメントの上、見直しをしています。その際には、事前に利用者や家族の希望を聞き、医師や看護師の意見は往診時に聞いて記録に残し計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分、食事量、排泄、心身状態の変化などを日々の記録を記載し、スタッフ間で共有し支援に活かしている。		

グループホームフレンド天王寺(ユニバーサル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフボランティアによる個人レクなどそのときの心身状況、に応じて柔軟なサービスを提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会長、近隣保育所との交流や、地域ふれあい喫茶など地域資源を活用し、日々の生活を楽しく送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの掛かりつけ医への受診、グループホームの往診医と連携している。	家族には入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えていますが、全員がホームの協力医を利用しています。ホームでは協力医の訪問以外にも必要な方は精神科、歯科の医師の定期的な往診があります。また医療が必要な利用者には専門医が往診し対応しています。週に一度看護師の訪問にて日々の健康管理を受けています。協力医とは24時間連絡可能で緊急時は指示を受け対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、往診医と連携し、状況に応じた相談が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の総合病院には定期的に訪問し関係作りをしている。また入退院時には病院に出向き情報の共有、交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様のご意向を最大限尊重し、協力医療機関との連携の下、支援できる体制の構築を行っている。	入居時に「重度化に関する同意書」を交わしています。重度化する中で医師から家族に現状を伝えてもらい、家族と医師、職員で対応を検討しています。医師や家族の協力を得ながら看取りの支援をした経験もあり、職員とも方針を共有し支援しています。スキルアップに向けて法人の重度化や看取りについての研修を予定しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別対応マニュアルにて全員が対応できるように指導している。また、入所中の方の病気については研修を通じて理解を深めるように努めている。		

グループホームフレンド天王寺(ユニバーサル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成をし、すぐにスタッフの応援を確保できるようにしている。また定期的に消防訓練など行っている。	年2回避難訓練を実施しており、一度は消防署立会いの下夜間を想定した通報や初期消火、避難誘導を行っています。また自主訓練では経路の確認や通報、誘導のシミュレーションを行っています。運営推進会議でも報告していますが、地域の協力や参加についての体制づくりには至っていません。	災害時における地域との協力体制は必要なことでもあり、近隣に訓練の案内を配布したり運営推進会議等で地域に協力を呼び掛けてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのときに状況に合わせた親しみ易い言葉遣いで対応しているが、ご年配の方への配慮、敬意をこめた対応、話しかけをするように指導している。	管理者は入職時の接遇マナー研修の他、日々のケアの中で利用者の尊厳を大切にしよう指導しています。家族のようで家族でない関係を重視し、丁寧すぎて他人行儀にならないよう気を配りながらも節度のある言葉かけに努めています。不適切な言動を見聞きした場合は、管理者が注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により、意思表示が困難になった方でも思いを汲み取ることが出来るように言葉かけの工夫日々の変化の観察を行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのときに心身状況や置かれている状況を踏まえ、ご自身で自己決定が出来るようにスタッフは寄り添い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出支援を行い、嗜好にあわせた衣類の購入、毎朝の整容時間の確保や、整容の促しによりその人がその人らしい格好出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居様のご希望を伺い食べたいものを皆で作って食べるイベントや、日々の食事メニューを掲示し、話題のひとつとすることで楽しみを持っていただけるよう取り組んでいる。	食事は調理済みの物が業者から届き、温め盛り付けて提供し、ご飯と汁物はホームで作っています。利用者個々の誕生日は希望を聞き、食べたいものを一緒に調理し提供しています。炊飯器でケーキを作ったり、たこ焼きを焼くなど、おやつ作りも盛んに行われています。家族と外食に出かけたり、個別レクリエーションで外食に出かけ飲酒を楽しむなど、個々の希望も重視した支援を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	往診医へ都度相談し水分、食事量など必要に応じた支援を行っている。		

グループホームフレンド天王寺(ユニバーサル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の支援でADLに合わせた口腔ケアを毎食後に行っている。また、定期的に歯科往診を行うことで口腔内の健康を保つことが出来る機会を確保している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居様一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に声掛け、誘導をさせて頂く事によりトイレの失敗を減らせるように支援している。	職員は、日々の記録から個々のパターンを把握して誘導し、トイレでの排泄を支援しています。いつも気持ち良く過ごしてほしいとの思いから、利用者のシグナルを見逃さないよう観察し、おむつの方を紙パンツに変更したり日中は布パンツで過ごせる人も増えてきています。夜間もなるべくポータブルトイレは使用せずトイレへの誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録で一人ひとりの排泄状況の確認を行い、排泄困難時には、医師の指示にて医療対応、便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は設定しているが、ご入居様の気分や体調にあわせ曜日の入れ替えや入浴時間を柔軟に対応している。	職員は利用者が週に2回以上は入浴できるよう支援しています。利用者の入りたい時を大切に、順番や曜日を柔軟に変更しています。湯はその都度入れ替えし、好みのシャンプーや石鹸を使用している利用者もいます。拒否が見られる利用者には好きな食べ物や趣味の話等、声掛けを工夫して対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して夜間、良眠できるように支援している。それでも眠れない方には訪問医と連携し睡眠導入剤などを服用していただき、1日のリズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的、副作用などスタッフで共有している。医師の指示通り服薬が出来るように情報を全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様のADLに合わせて洗濯物たたみや食事配膳など出きる事を見極め役割を持った支援を行っている。		

グループホームフレンド天王寺(ユニバーサル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入所者様のご意向に沿って外出支援を行っている。また、定期的にかフェや近くの商店街に私物購入に出かけ、閉じこもった生活にならないよう日々支援を行っている。	気候の良い時期は毎日の様にホーム周辺を散歩したり、コンビニで買い物しています。行けないときは順番に玄関先で外気浴を行い、日光にあたることを大切にし実践しています。職員は個別で利用者と洋服や嗜好品等の買い物に出かけたり、家族に声をかけ一緒に外食やカフェ、デパート等に出かけられるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所にてお預かりさせていただいているが、外出時にはお金をご自身で管理していただき、買い物して頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆、ポストの投函、家族、友人など電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口の表札や大きいトイレのマークなどを掲示することにより混乱無くご自身の意思どおり生活していただけるように配慮している。また、ご入居者様が話し易いよう席の配置も考え日常の支援を行っている。	フロアの壁には貼り絵で作った季節のカレンダーを飾ったり、毎月切り花を購入し活かすることで季節を味わってもらっています。また空気清浄機や加湿器を用いたり、西日を避けるため窓ガラスに遮光シートを貼るなどして利用者が快適に暮らせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士話すことが出来るよう座る場所の配慮を行っている。また全員参加のゲームを行うことで親睦を深める環境を作れるように支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを居室内に配置し、危険が無い物で好みのものを持ってきていただくことにより安心して心地よく過ごしていただけるように支援している。	利用者はベッドとクローゼットが用意された居室に、自宅から机や椅子、テレビ、仏壇、家族の写真等を持参しています。これまでの生活歴を大切にし、持参した編み物セットや針箱等をホームで管理して、職員が見守りながら使用している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内においてバリアフリーであるのは勿論のこと、わかり易い標識などの掲示やADLに合わせた福祉用具の活用をすることにより安心して自立した生活を送ることが出来るように環境の整備、支援をしている。		